

2026年5月












# アジア・パシフィック経済マンスリー

株式会社 第一ライフ資産運用経済研究所

経済調査部 主席エコノミスト

阿原 健一郎 (TEL: 050-5470-4868)

# 実体経済サマリー

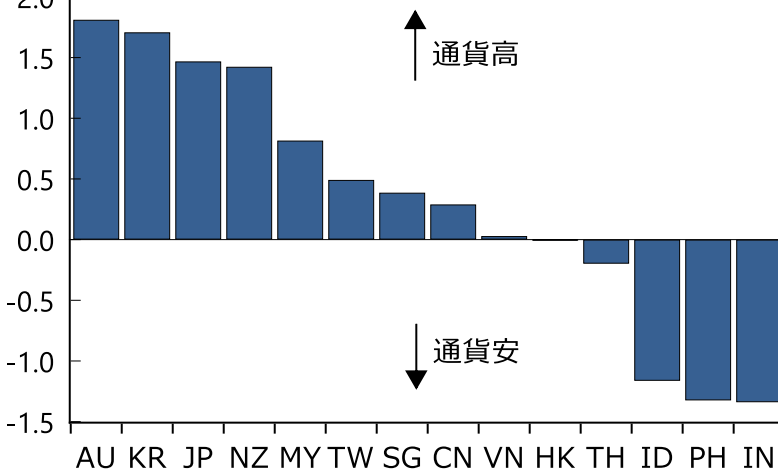
		実質GDP（前年比、前期比年率、%）						CPI（前年比、%）			失業率（%）		
		2024	2025	2025 Q2	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1	2025 Q3	2025 Q4	2026 Q1
	中国	5.0	5.0	4.9	4.1	4.9	5.3	-0.2	0.6	0.8	5.2	5.1	5.3
	インド	7.2	7.5	7.4	8.6	7.3		1.7	0.6	3.1	6.5	7.0	6.7
	韓国	2.0	1.0	2.7	5.4	-0.6	6.9	2.0	2.4	2.1	2.7	2.9	2.9
	台湾	5.3	8.7	13.2	7.4	23.6		1.5	1.3	1.2	3.3	3.4	3.3
	香港	2.6	3.5	3.3	3.7	4.0		1.1	1.3	1.6	3.8	3.8	3.8
	シンガポール	5.3	5.0	7.3	7.8	5.2	-1.3	0.6	1.2	1.5	2.0	2.0	2.0
	インドネシア	5.0	5.1	5.4	5.1	5.5		2.4	2.8	3.9	4.9	4.7	4.7
	タイ	2.9	2.4	1.9	-1.3	7.8		-0.7	-0.5	-0.5	0.7	0.7	0.9
	フィリピン	5.7	4.4	3.7	1.4	2.4	3.8	1.4	1.7	2.8	4.3	4.6	5.3
	マレーシア	5.1	5.2	8.9	11.0	3.1		1.3	1.4	1.6	3.0	2.9	
	ベトナム	7.0	8.0	32.1	31.9	30.4	26.6	3.3	3.1	3.1	2.2	2.2	2.2
	オーストラリア	1.1	2.0	3.4	1.9	3.2		3.2	3.6	4.1	4.3	4.3	4.2
	ニュージーランド	-0.3	0.5	-2.6	3.6	0.3		3.0	3.1	3.1	5.2	5.3	5.7

(注) ヒートマップは各国各指標の直近5年のZ-score（平均からの乖離）を計算、Z-scoreが+3以上を最も濃い赤色（上振れ）、▲3以下を最も濃い青色（下振れ）で表示。CPIと失業率は四半期の平均値。

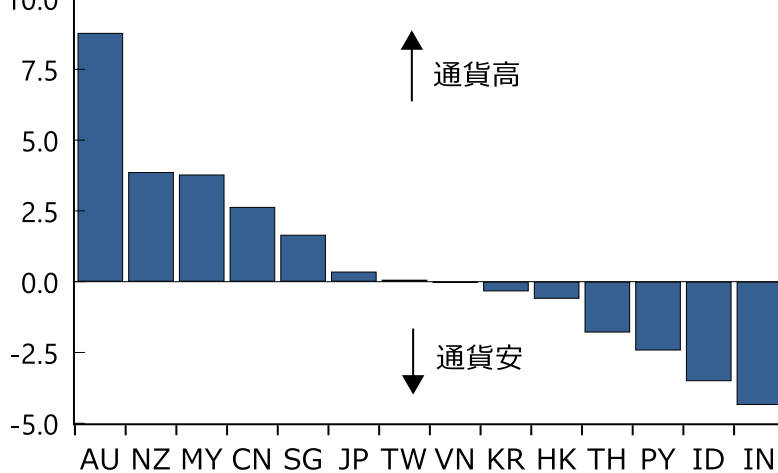
(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成

## 為替

(前月からの騰落率、%)

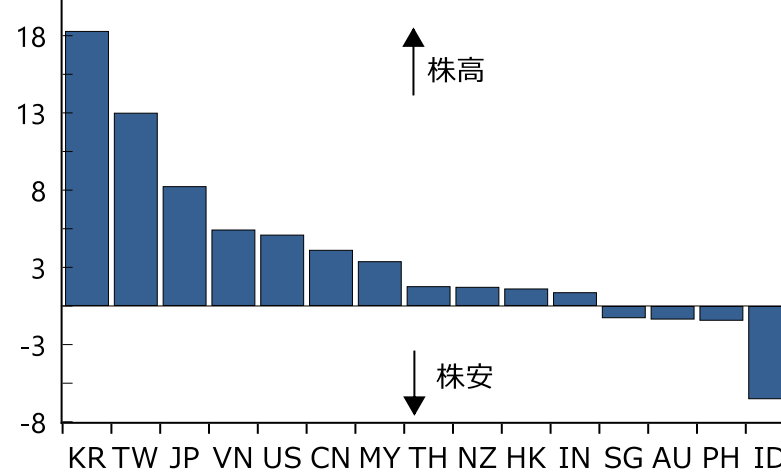


(年初来騰落率、%)

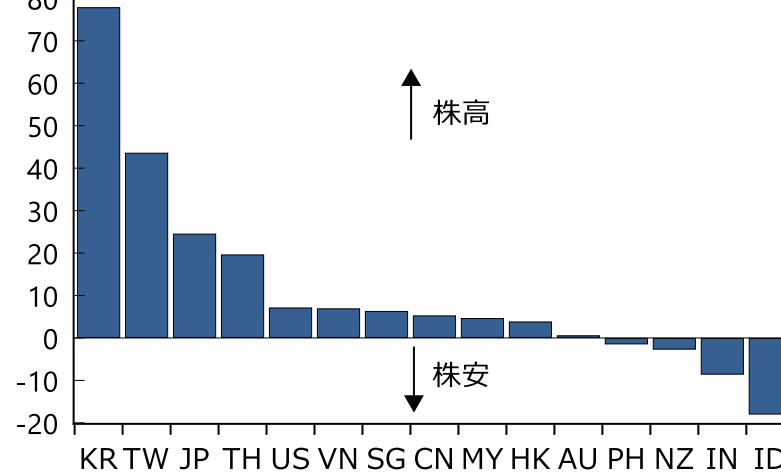


## 株価

(前月からの騰落率、%)

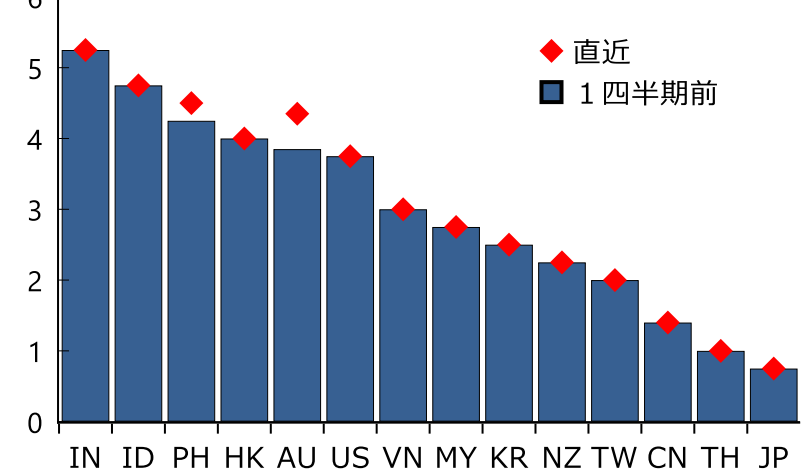


(年初来騰落率、%)



## 政策金利

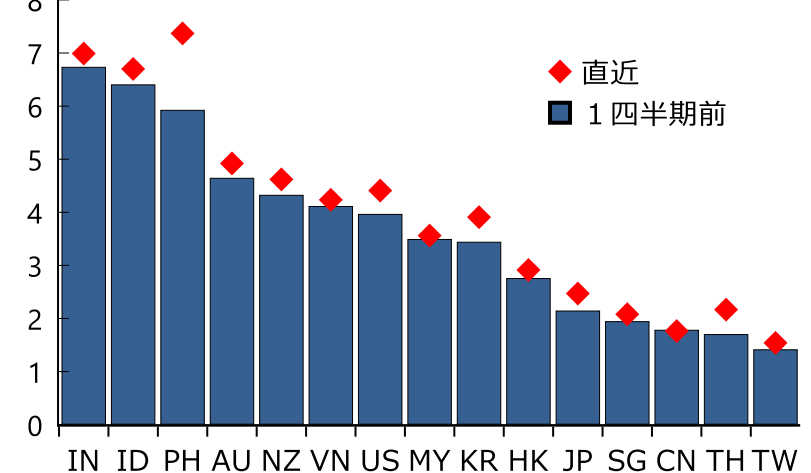
(政策金利、%)



(注) 直近は5/7日時点。

## 10年国債利回り

(利回り、%)



(注) 直近は5/7日時点。

(注) 前月からの騰落率は26年4月平均と5/7日までの5月平均との比較、年初来騰落率は2025年終値と5/7日終値との比較。  
為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU=オーストラリア、CN=中国、HK=香港、IN=インド、ID=インドネシア、JP=日本、KR=韓国、  
MY=マレーシア、NZ=ニュージーランド、PH=フィリピン、SG=シンガポール、TW=台湾、TH=タイ、US=米国、VN=ベトナム。

(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成



# 中国

## ■ PMIは拡大ペースが加速

4月のRatingDog製造業PMIは52.2と、前月（50.8）から拡大ペースが加速。新規受注指数や生産指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率は幾分鈍化

3月の総合CPIは前年比+1.0%と、前月（同+1.3%）から幾分鈍化。中東紛争により燃料価格が上昇したものの、食料価格の伸びが鈍化し、総合CPIを押し下げた。

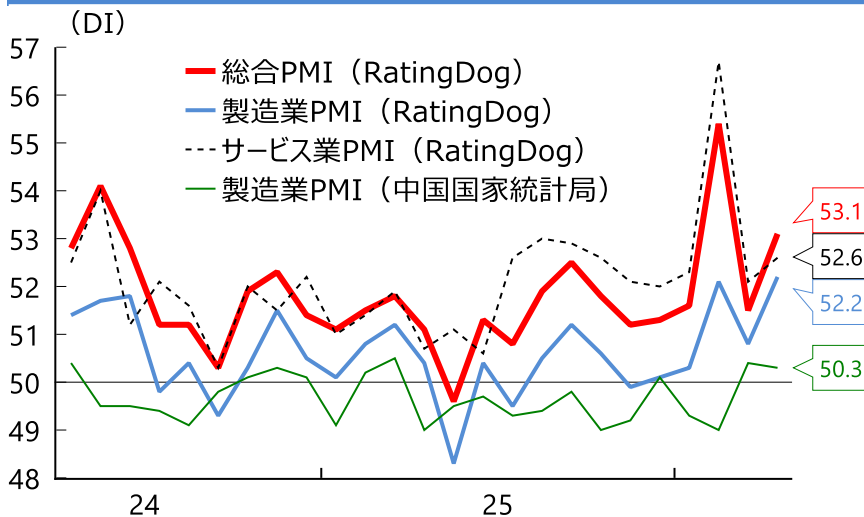
## ■ 消費は低位で推移

3月の小売売上高は前年比+1.7%と、1-2月（同+2.8%）から増加幅が縮小。3月の不動産販売面積も同▲10.7%と、依然として減少が続いており、不動産市況の低迷が長期化している。

## ■ 輸出は増加幅が大きく縮小

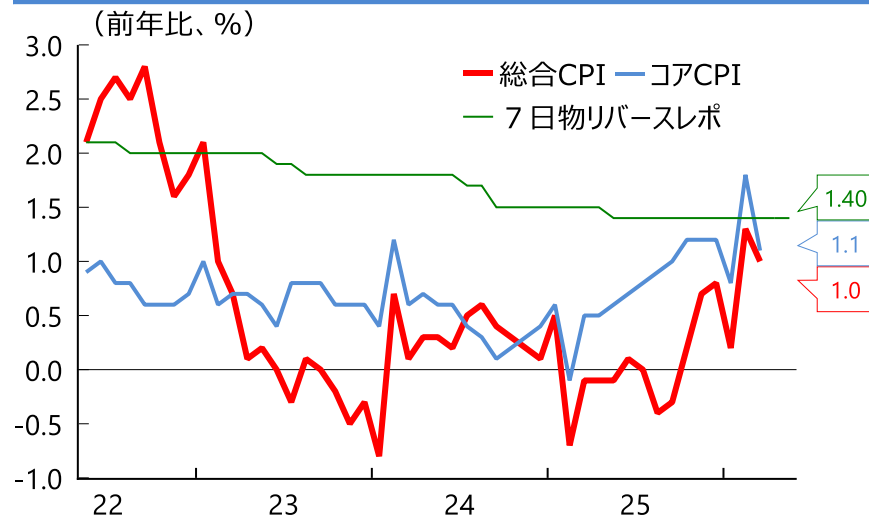
3月の輸出は前年比+2.5%と、前月（同+39.6%）から増加幅が大きく縮小。仕向け地別では、主要相手国で軒並み増加幅が縮小した。前年に米国の関税が発動する前に駆け込みで出荷した裏要因もあるが、中東情勢の悪化による燃料費や輸送費の高騰が価格競争力を削いでいる可能性がある。

## PMI



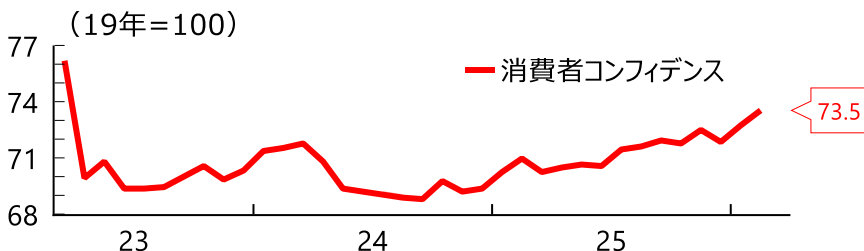
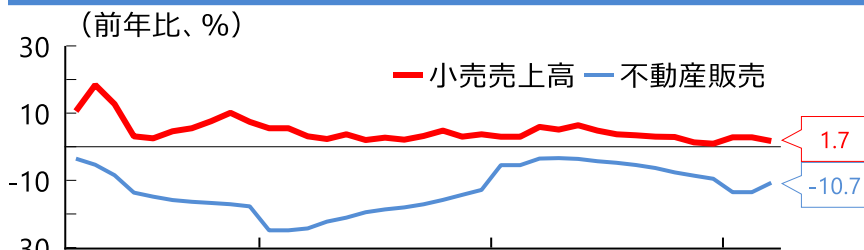
(注) 直近は4月。

## インフレ率と主要政策金利



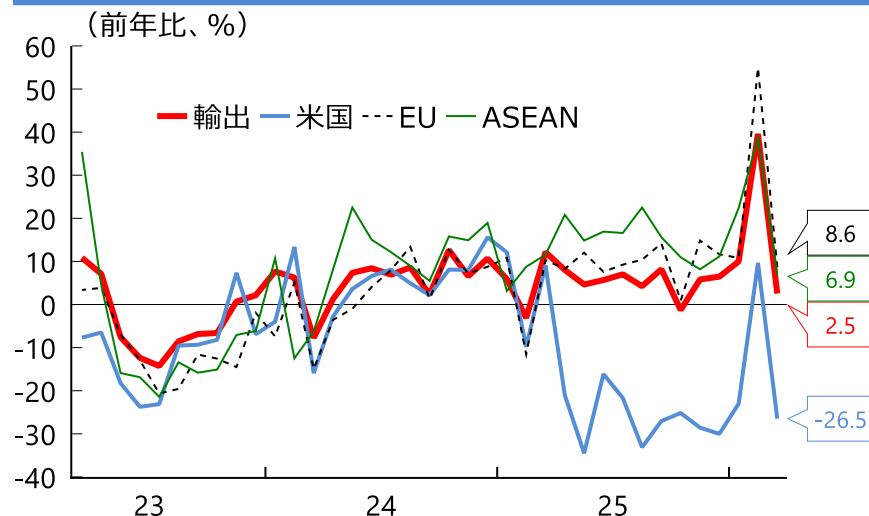
(注) 直近は7日物リバースレポが5/7日、その他が3月。

## 消費



(注) 直近は消費者コンフィデンスが2月、その他は3月。不動産販売は面積ベース。

## 輸出



(注) 直近は3月（速報値）。米ドル建ての輸出額。



# インド

## ■ PMIは引き続き拡大

4月の総合PMIは58.2と、前月(57.0)に続き拡大。製造業・サービス業ともに新規受注指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ RBIは政策金利を据え置き

3月の総合CPIは前年比+3.4%と、前月(同+3.2%)から加速。食料価格の上昇が総合CPIを押し上げた。  
4月8日、インド準備銀行(RBI)は政策金利の据え置きを決定(5.25%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、中東情勢の悪化によるインフレと経済成長見通しのリスクに触れつつ、「状況の変化と成長・インフレ見通しの推移を注視することが賢明」とした。

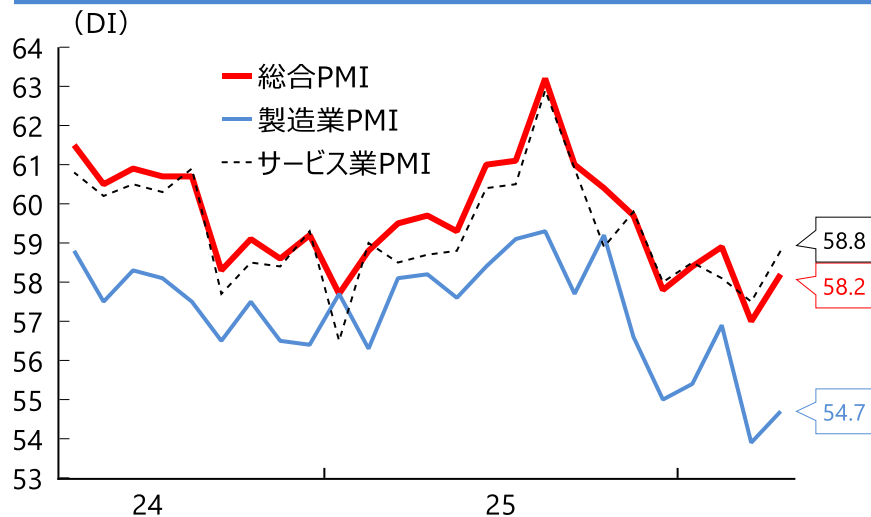
## ■ 自動車販売は引き続き増加

4月の自動車販売台数は前年比+12.9%と、前月(同+25.3%)に引き続き増加。乗用車を中心に販売台数が増加。

## ■ 鉱工業生産は引き続き増加

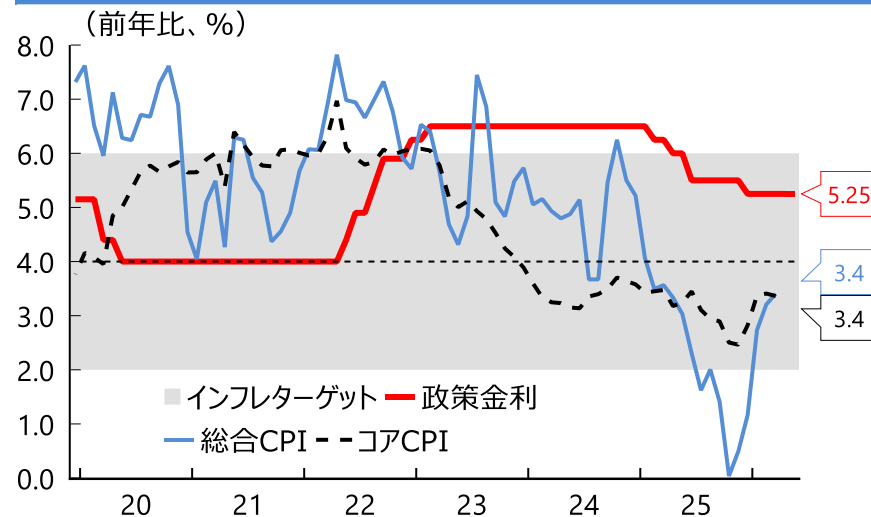
3月の鉱工業生産は前年比+4.1%と、前月(同+5.1%)から増加幅が縮小したものの堅調に推移。基礎金属や機械設備を中心に増加。

## PMI



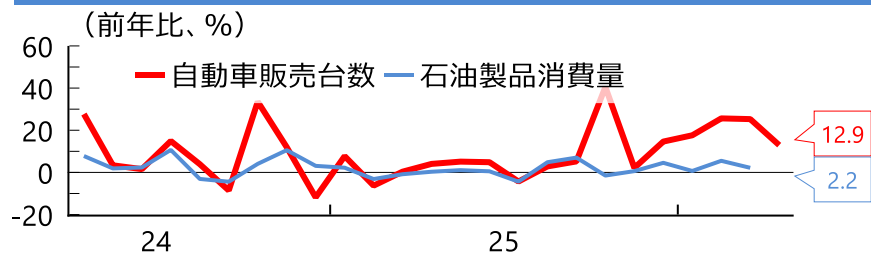
(注) 直近は4月。

## インフレ率と政策金利

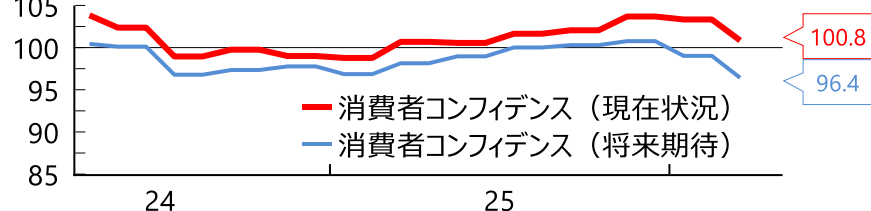


(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が3月。

## 消費

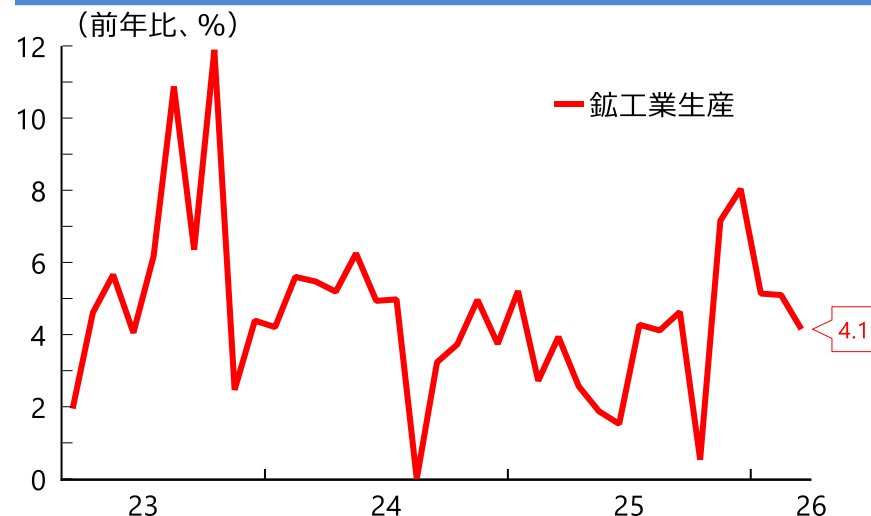


(19年=100)



(注) 直近は自動車販売台数が4月、その他が3月。自動車販売台数は二輪車などを含む。

## 鉱工業生産



(注) 直近は3月。



# 韓国

## ■ PMIは拡大ペースが加速

4月の製造業PMIは53.6と、前月（52.6）から拡大ペースが加速。新規受注指数や生産指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ BOKは政策金利を据え置き

4月の総合CPIは前年比+2.6%と、前月（同+2.2%）に続き加速。中東紛争を受けた燃料価格の上昇で輸送費の寄与が拡大、総合CPIを押し上げた。

4月10日、韓国銀行は政策金利の据え置きを決定（2.50%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、中東情勢に起因する不確実性が高いとし、「中東紛争の展開とその影響を評価しつつ、政策金利を現状維持することが適切である」とした。

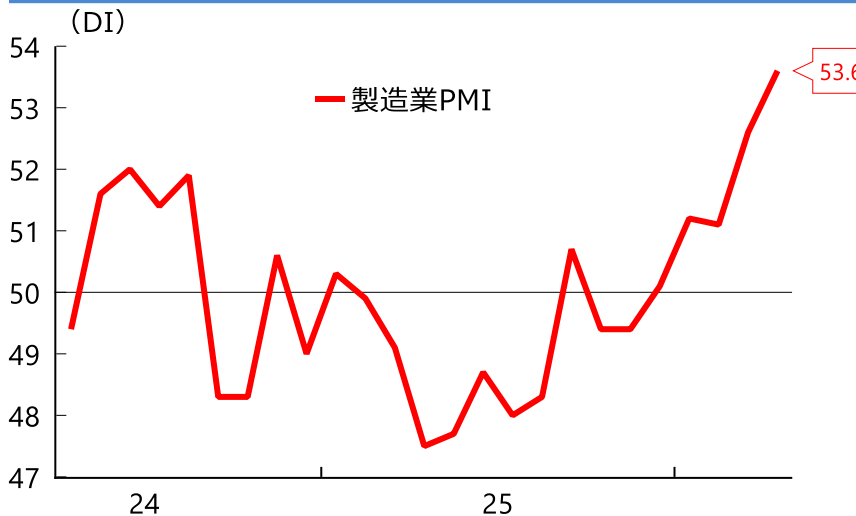
## ■ 消費は前月から増加

3月の小売売上高は前期比+1.8%と、前月（同▲0.3%）から増加。

## ■ 輸出は半導体の増加幅が拡大

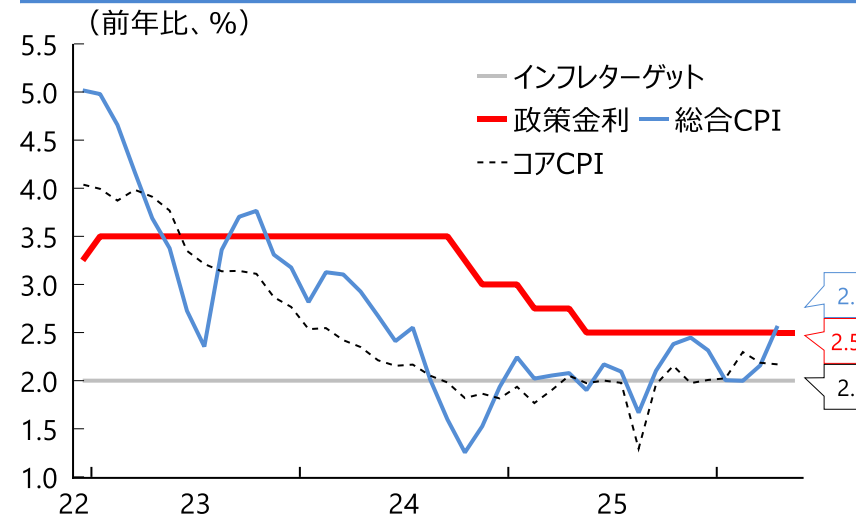
4月の輸出は前年比+48.0%と、前月（同+49.2）に続き増加。AIサーバー関連のメモリ半導体を中心に、半導体輸出が同+173.5%増加し、輸出を大きく牽引した。4月としては過去最高の貿易黒字となった。

### PMI



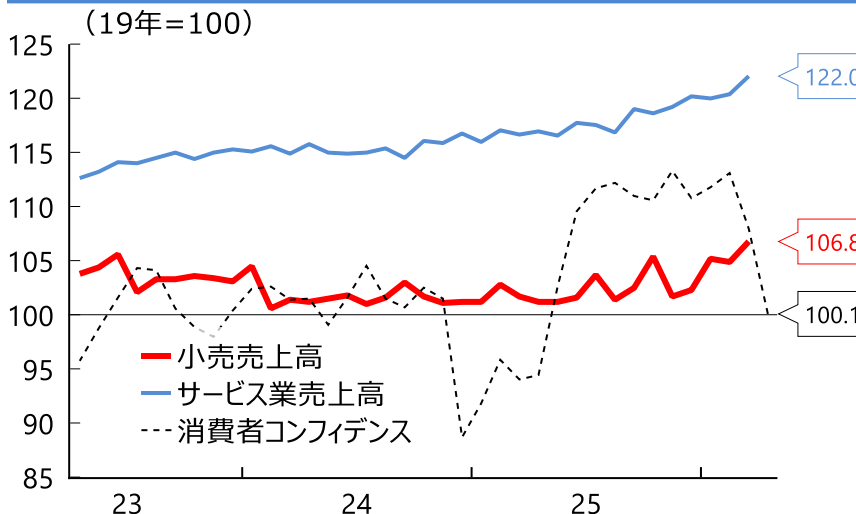
(注) 直近は4月。

### インフレ率と政策金利



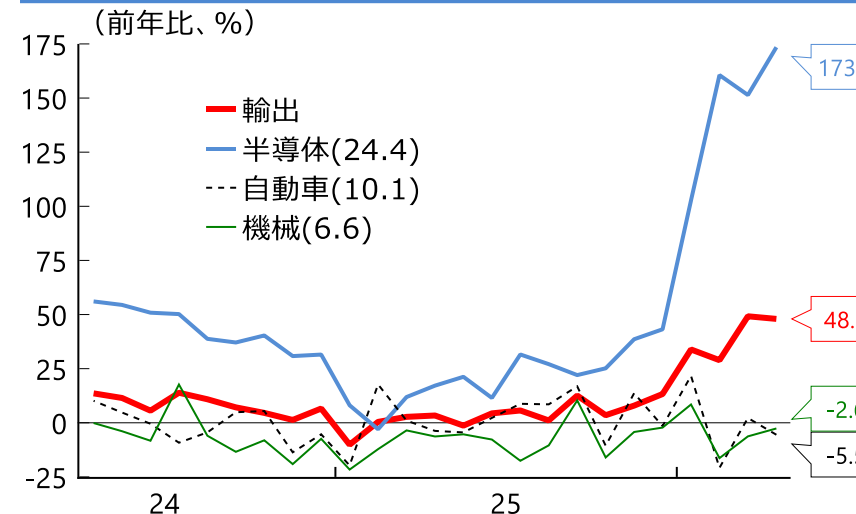
(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が4月。

### 消費



(注) 直近は消費者コンフィデンスが4月、その他が3月。

### 輸出



(注) 直近は4月。米ドル建ての輸出額。( )内は25年輸出額に占める割合。

## ■ PMIは拡大ペースが加速

4月の製造業PMIは60.3と、前月(55.4)から拡大ペースが加速。エレクトロニクス部門は受注が増加し67.5と引き続き拡大し、製造業全体を支えている。

## ■ インフレ率は加速

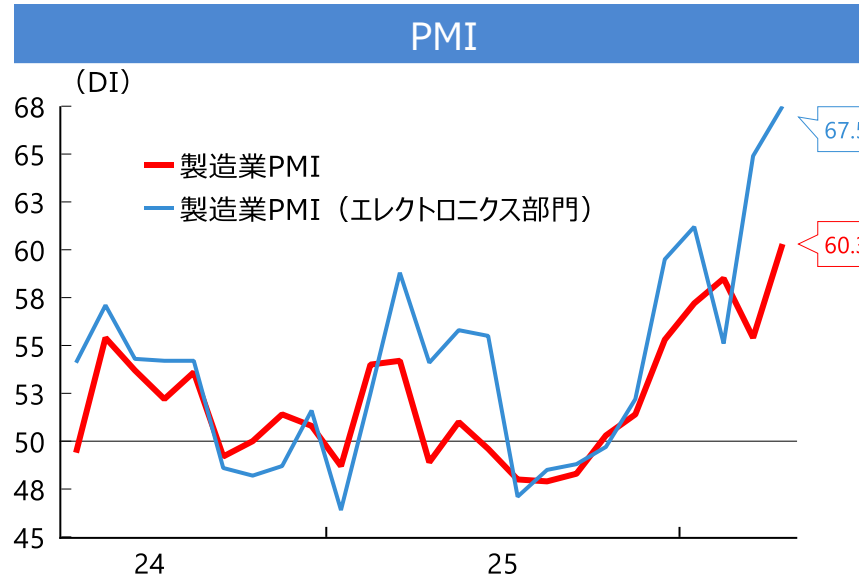
4月の総合CPIは前年比+1.7%と、前月(同+1.2%)から加速。輸送・通信のマイナス寄与が縮小、総合CPIを押し上げた。

## ■ 消費は増加幅が縮小

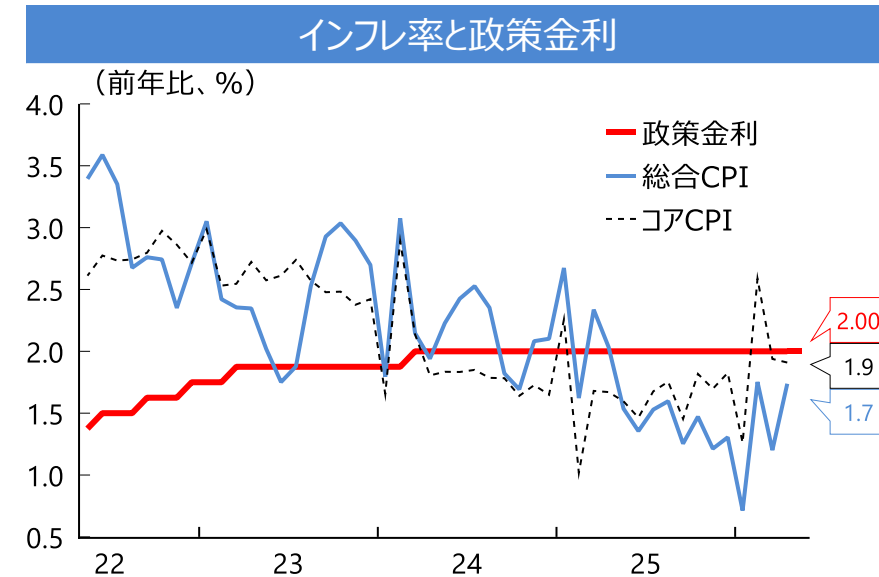
3月の実質小売売上高は前年比+3.0%と、前月(同+7.8%)から増加幅が縮小。情報通信機器、燃料等の売上高は増加幅が拡大したものの、その他の品目は伸び悩んだ。

## ■ 輸出受注は増加幅が拡大

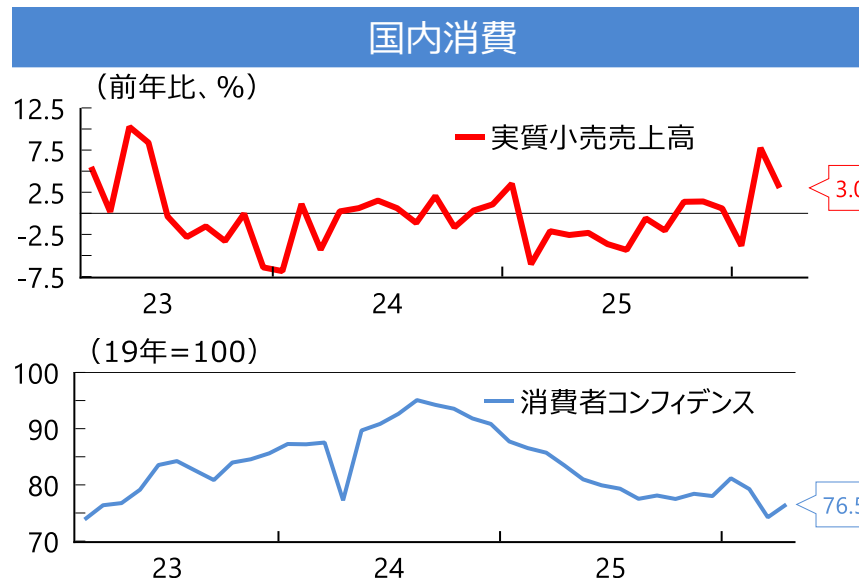
3月の輸出受注は前年比+71.8%と、前月(同+29.2%)から増加幅が拡大、過去最高の受注額となった。特に、AI関連の需要が強く、電子製品の輸出受注が同+82.6%と大きく拡大した。



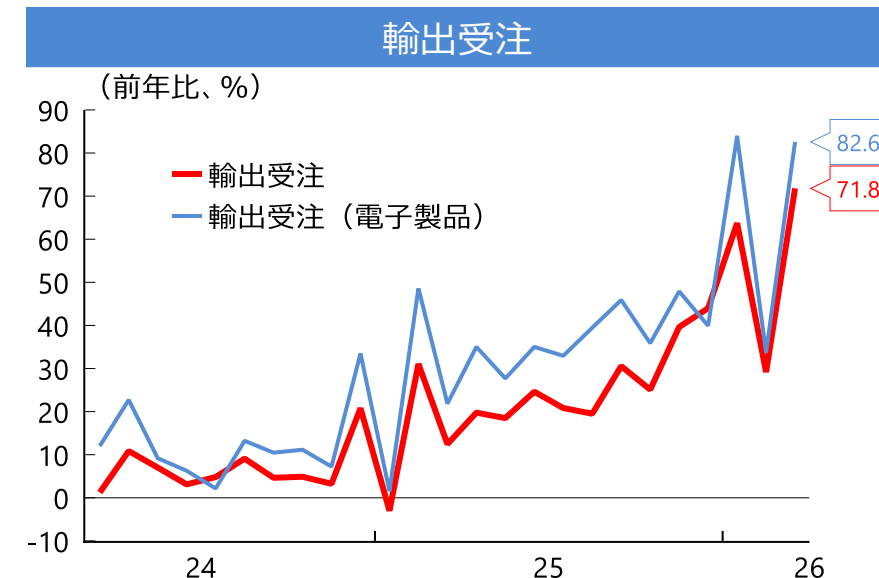
(注) 直近は4月。国家発展委員会の公表値。



(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が4月。



(注) 直近は実質小売売上高が3月、消費者コンフィデンスが4月。



(注) 直近は3月。米ドル建ての輸出受注額。

## ■ PMIは縮小ペースが加速

4月の総合PMIは48.6と、前月（49.3）から縮小ペースが加速。

## ■ HKMAはFRBに追随して据え置き

3月の総合CPIは前年比+1.7%と、前月（同+1.7%）から横ばいで推移。コアCPIは同+1.6%と、前月（同+1.8%）から幾分鈍化した。4月30日、香港金融管理局（HKMA）は政策金利の据え置きを決定（4.00%）。前日にFRBが据え置きを決定したことを受けて、これに追随した。

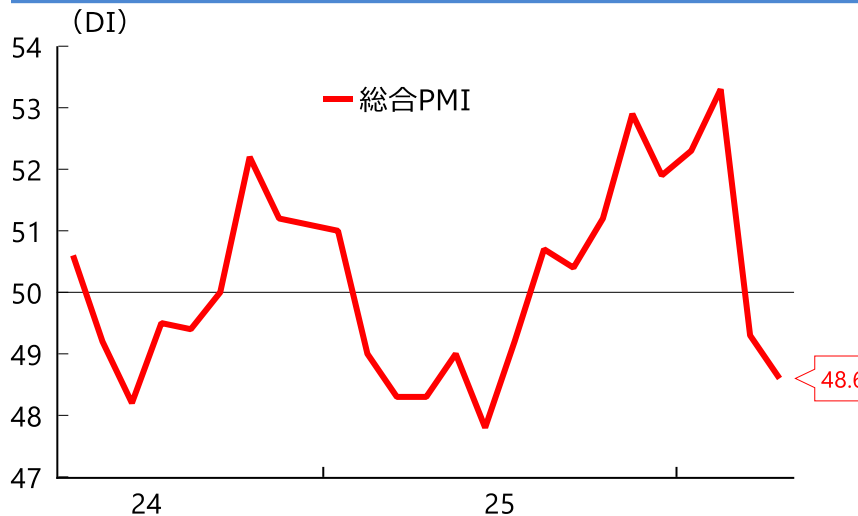
## ■ 消費は引き続き増加

3月の実質小売売上高は前年比+9.8%と、前月（同+17.5%）から伸びは鈍化したものの、引き続き増加。地元の需要に加え、中国本土を中心に観光客数が前年比で増加したことから、宝飾品等の売上げが増加した模様。

## ■ 輸出は引き続き増加

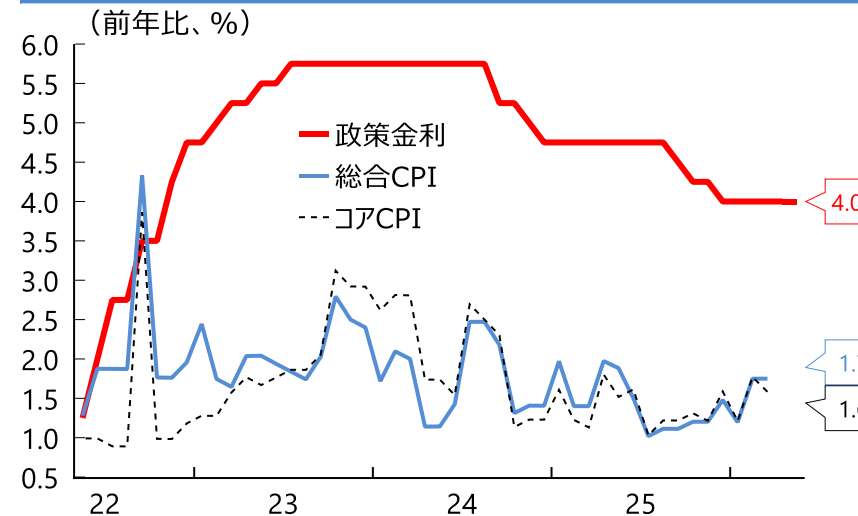
2月の輸出量は前年比+19.6%と、前月（同+29.5%）に続き増加。AI関連の電子部品の出荷が対米向けを中心に増加した。

### PMI



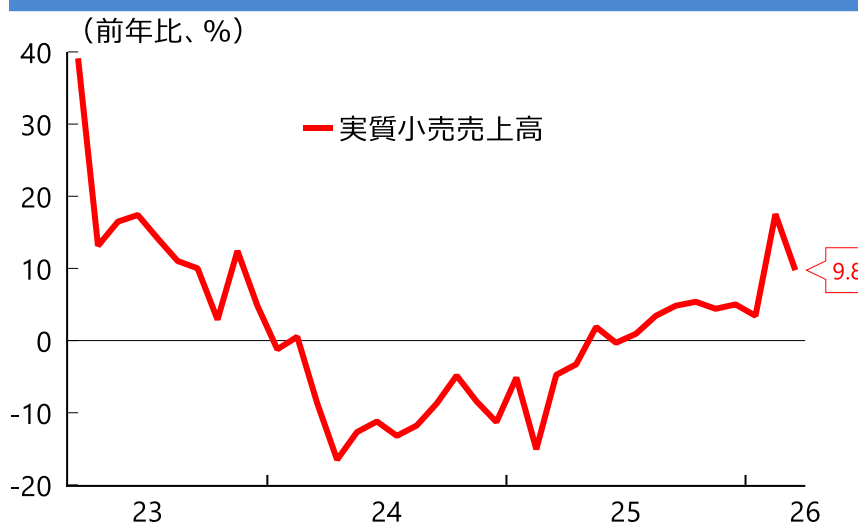
(注) 直近は4月。

### インフレ率と政策金利



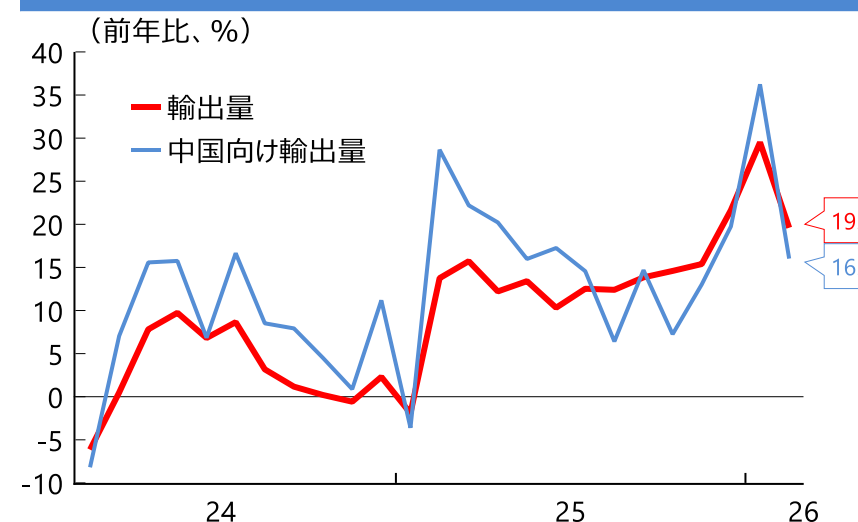
(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が3月。

### 国内消費



(注) 直近は3月。

### 輸出



(注) 直近は2月。再輸出を含む輸出量の指数。



# シンガポール

## ■ PMIは引き続き拡大

4月の製造業PMIは50.7と、前月(50.5)に続き拡大。エレクトロニクス部門が51.7と、前月(51.4)から拡大ペースが加速した。

## ■ 政策為替レートは足もと減価

4月14日、シンガポール通貨金融庁(MAS)は、政策為替レートS\$NEERの誘導目標について、傾斜を「若干引き上げる」と発表し、金融引き締めへ転じた。誘導目標のバンド、中央値は据え置く。金融引き締めは市場予想通り。中東情勢の悪化を受けた輸入物価上昇のインフレリスクへの対応を取った。政策為替レートは足もとで141.39と減価している。

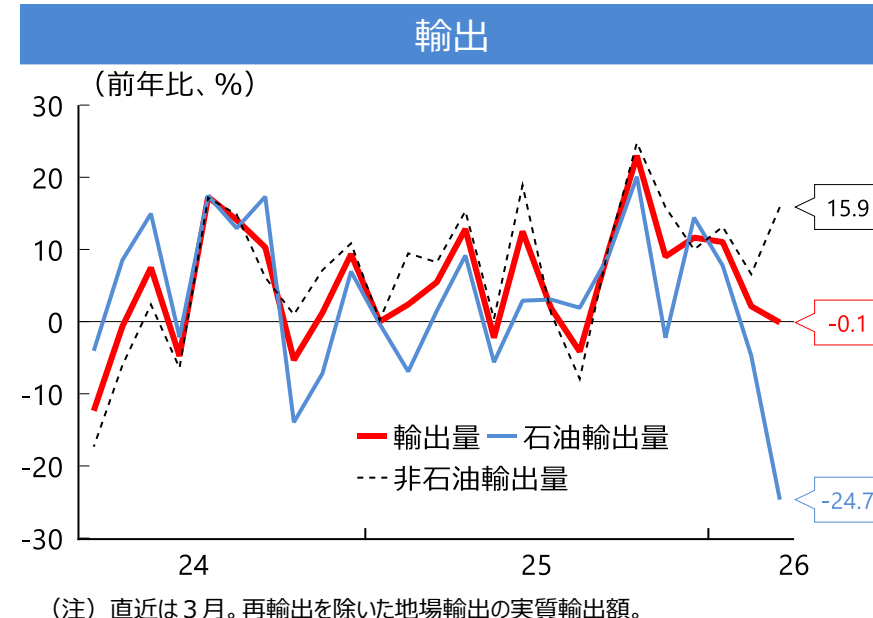
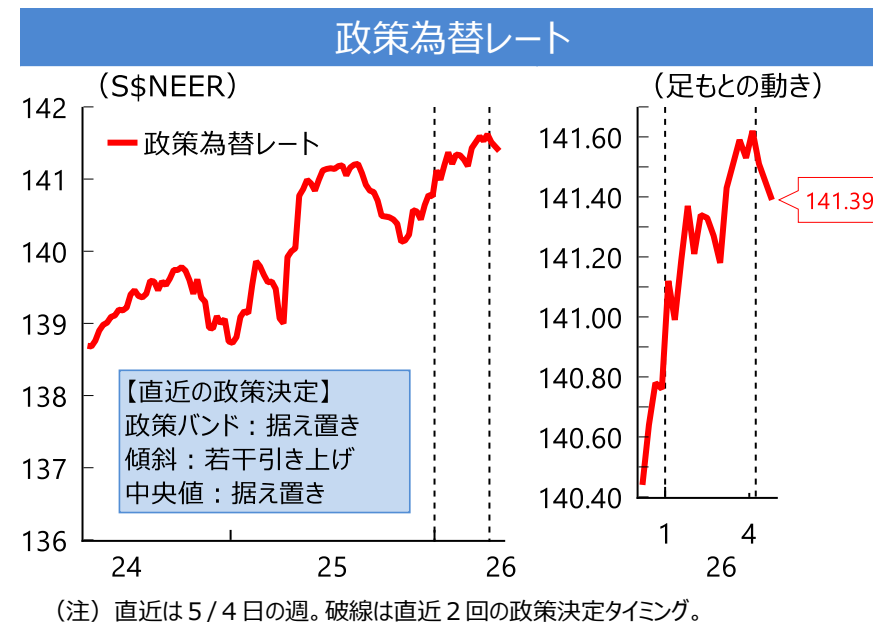
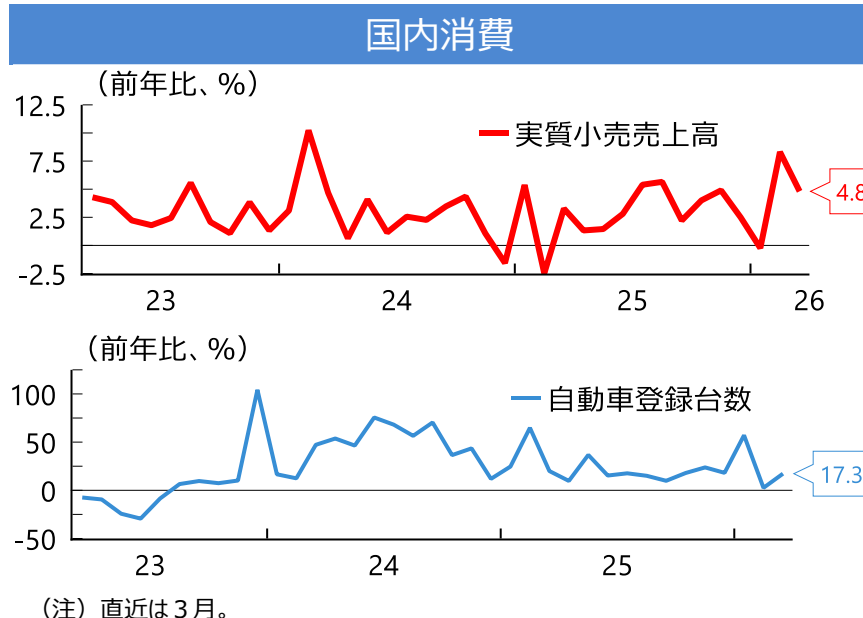
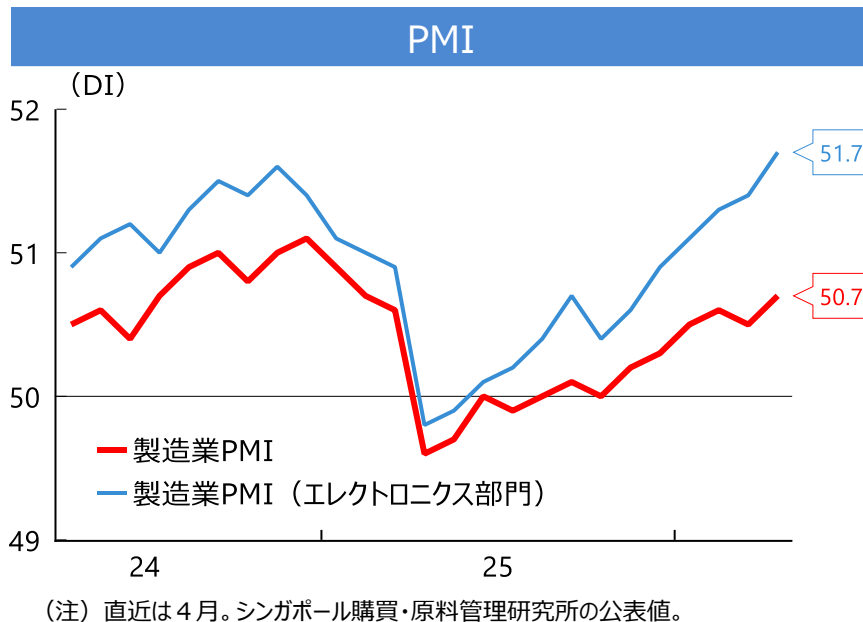
## ■ 消費は引き続き増加

3月の実質小売売上高は前年比+4.8%と、前月(同+8.3%)に続き増加。自動車登録台数が同+17.3%と増加し、小売売上を牽引した。

## ■ 非石油輸出が増加

3月の輸出は前年比▲0.1%と減少したものの、非石油輸出は同+15.9%と、前月(同+6.7%)から増加幅が拡大。

(出所) Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成





# インドネシア

## ■ PMIは縮小に転じる

4月の製造業PMIは49.1と、前月(50.1)から縮小に転じた。新規受注指数が拡大に転じたものの、生産指数が縮小するもと、原材料在庫指数も縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ BIは為替レート安定のため据え置き

4月の総合CPIは前年比+2.4%と、前月(同+3.5%)から鈍化。中東紛争により燃料価格が上昇したものの、前年に政府が電気料金を引き下げている裏要因が剥落し、総合CPIを押し下げた。

4月22日、インドネシア銀行(BI)は政策金利の据え置きを決定(4.75%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、「中東戦争によって引き起こされた世界経済情勢の悪化の中で、ルピア為替レートの安定性を強化する取り組みと総合的」とし、為替レートの安定を優先した。

## ■ 消費は引き続き増加

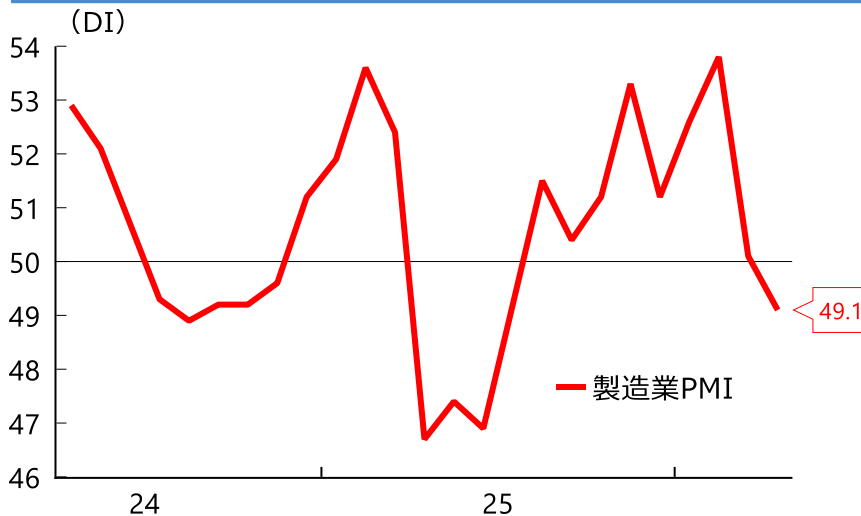
2月の小売売上高は前年比+6.5%と、前月(同+5.7%)から増加幅が拡大。3月の中銀予測値は同+2.4%と、引き続き増加する見通し。

## ■ 輸出は減少に転じる

3月の輸出は前年比▲3.1%と、前月(同+11.6%)から減少に転じた。

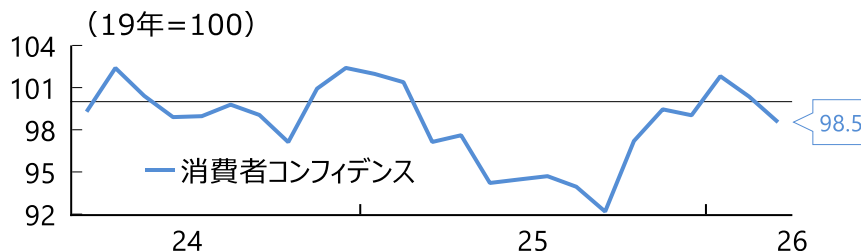
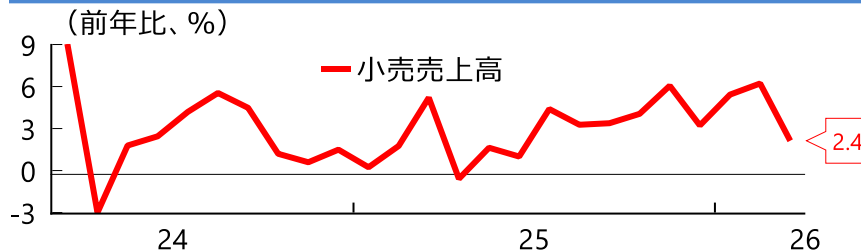
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

## PMI



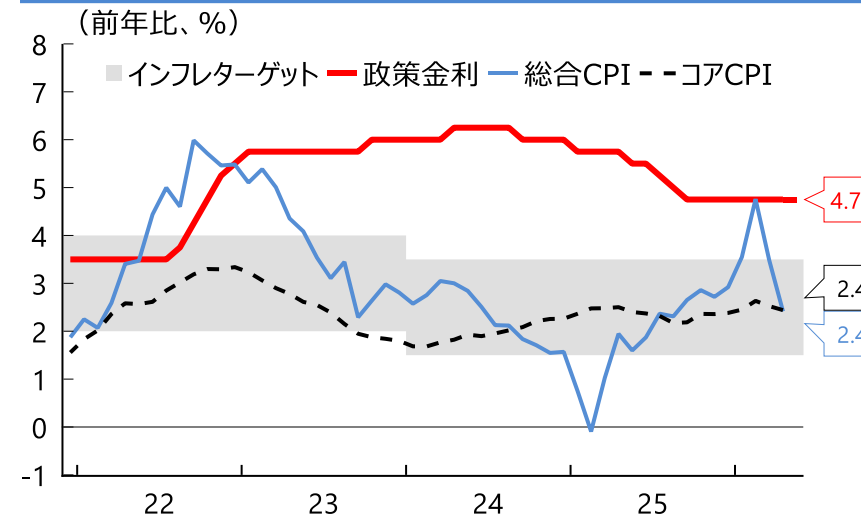
(注) 直近は4月。

## 国内消費



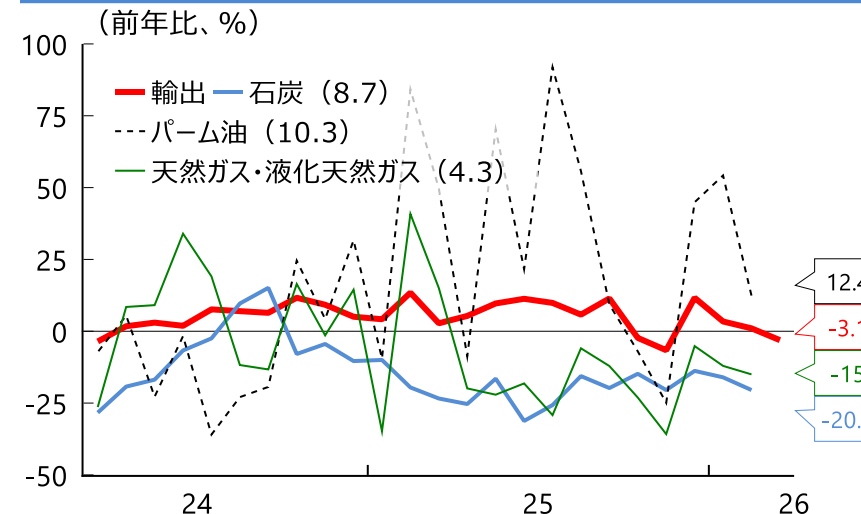
(注) 直近は3月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

## インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が4月。

## 輸出



(注) 直近は輸出が3月、その他は2月。()内は25年輸出額に占める割合。



# タイ

## ■ PMIは拡大ペースが鈍化

4月の製造業PMIは52.7と、前月(54.1)から拡大ペースが鈍化。

## ■ BOTは政策金利を据え置き

4月の総合CPIは前年比+2.9%と、前月(同▲0.1%)から大きく加速。中東情勢の悪化に伴う原油高により、輸送費を中心にプラス寄与が大幅に拡大、総合CPIを押し上げた。

4月29日、タイ中銀(BOT)は政策金利の据え置きを決定(1.00%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、「現在の政策金利は減速する経済を支え、高まる不確実性に対処するのに適切である」とした。

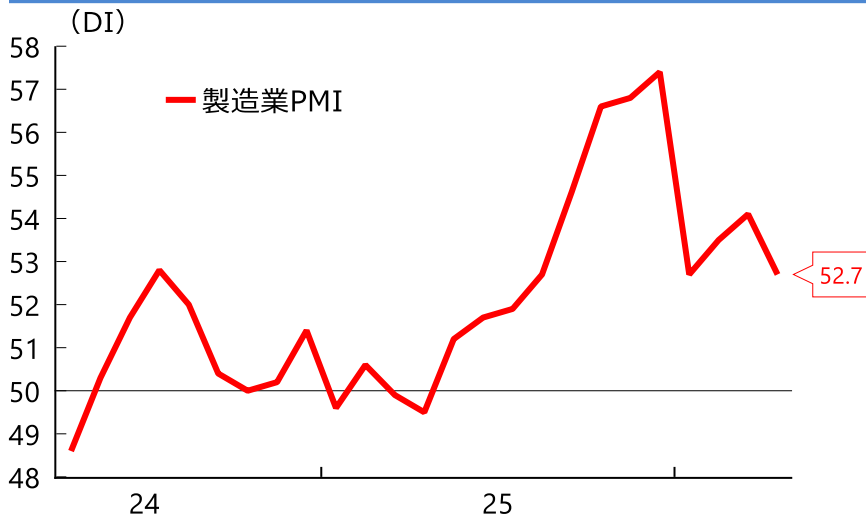
## ■ 消費は引き続き増加

2月の小売売上高は前年比+20.0%と、前月(同+75.6%)から増加幅は縮小したものの引き続き増加。3月の自動車販売は同+7.3%と、前月(同▲2.2%)から増加に転じた。

## ■ 観光客数は減少

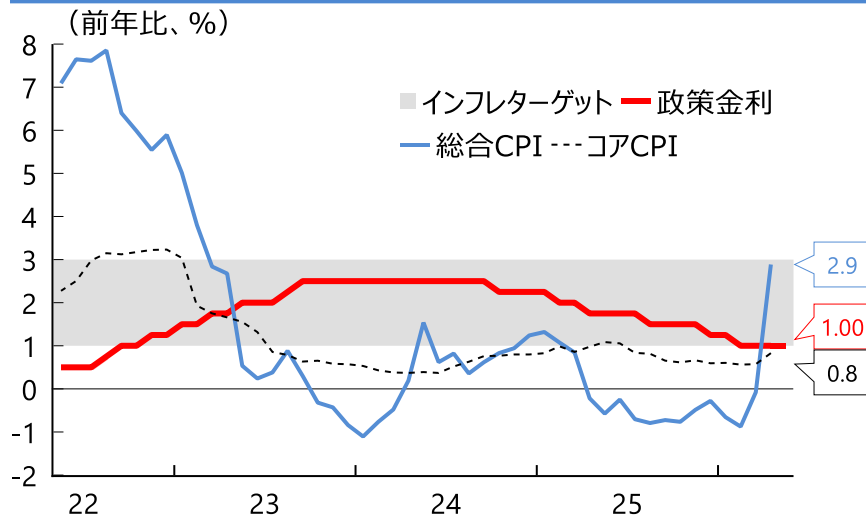
4月単月は約237万人、前年比▲7.0%と減少。中国人観光客は同+31.9%増加したが、ASEAN諸国が同▲15.8%、欧州が同▲15.8%と減少した。

### PMI



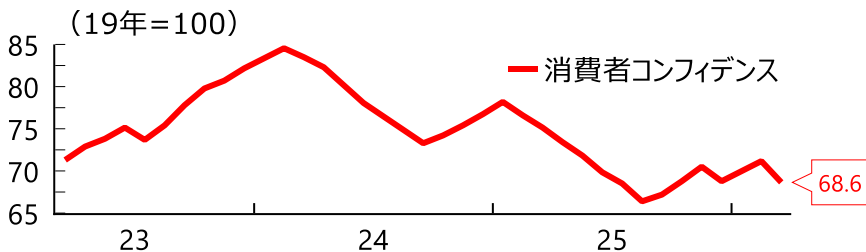
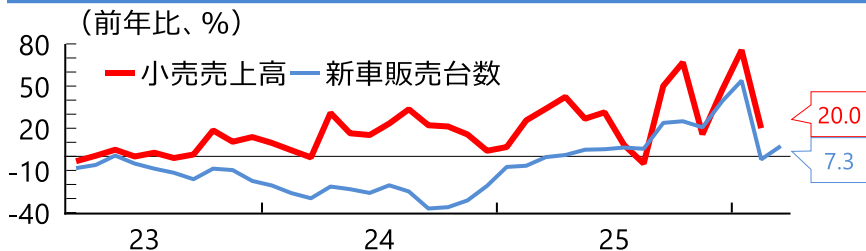
(注) 直近は4月。

### インフレ率と政策金利



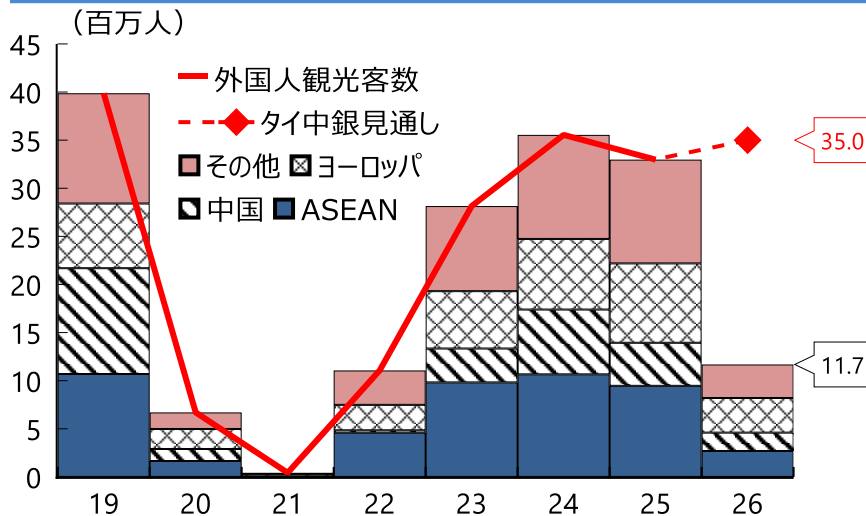
(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が4月。

### 国内消費



(注) 直近は小売売上高が2月、その他が3月。

### 外国人観光客数



(注) 26年は4月時点実績。



# フィリピン

## ■ PMIは縮小に転じる

4月の製造業PMIは48.3と、前月（51.3）から縮小に転じた。新規受注指数が縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ BSPはインフレ対策で利上げ

4月の総合CPIは前年比+7.2%と、前月（同+4.1%）から大きく加速。コメを中心に食料価格が上昇するもと、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が加わり、総合CPIを押し上げた。

4月23日、フィリピン中銀（BSP）は利上げを決定（+25bps、4.25% → 4.50%）。市場予想は据え置きと利下げで割れていた。声明文では、「物価安定を維持するために、時宜を得た先制的な政策措置を講じる必要があると判断した」として、インフレ抑制の対策を優先した。

## ■ 新車販売台数は減少

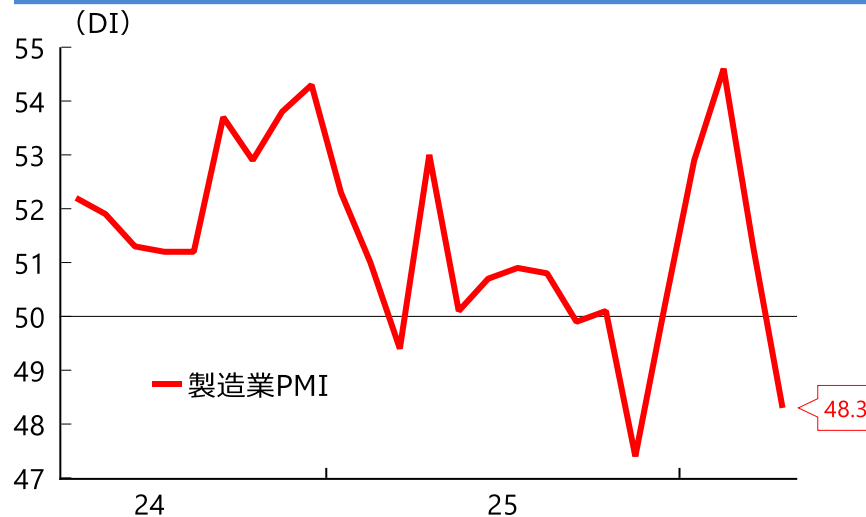
3月の新車販売台数は前年比▲10.4%と、前月（同▲8.5%）に続き減少した。

## ■ 輸出は引き続き増加

3月の輸出は前年比+20.4%と、前月（同+8.9%）から増加幅が拡大。主力である電気・電子製品の増加幅が拡大し、輸出全体を牽引した。

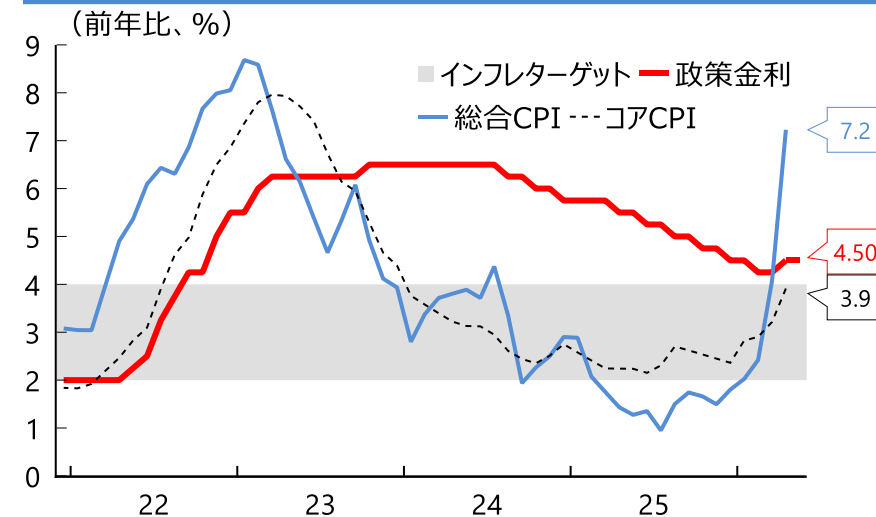
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

## PMI



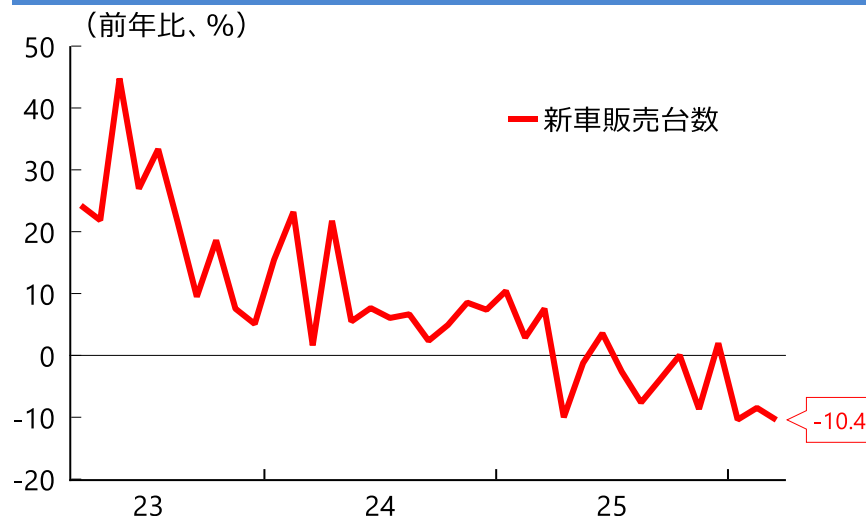
（注）直近は4月。

## インフレ率と政策金利



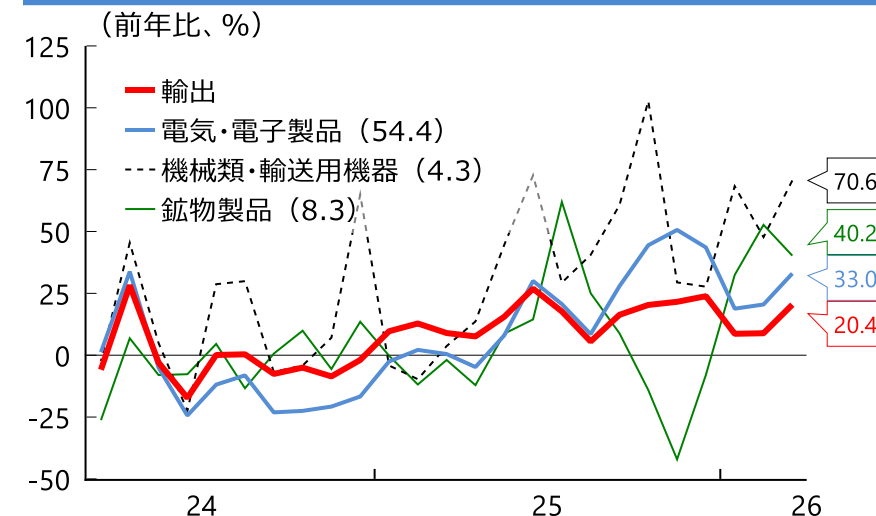
（注）直近は政策金利が5/7日、その他が4月。

## 国内消費



（注）直近は3月。

## 輸出



（注）直近は3月。（）内は25年輸出額に占める割合。



# マレーシア

## ■ PMIは引き続き拡大

4月の製造業PMIは51.6と、前月(50.7)から拡大ペースが加速。新規受注指数が拡大に転じ、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ マレーシア中銀は予想通りの据え置き

3月の総合CPIは前年比+1.7%と、前月(同+1.4%)から加速。食品価格の伸びが鈍化したものの、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が総合CPIを押し上げた。

5月7日、マレーシア中銀は政策金利の据え置きを決定(2.75%)。据え置きは市場予想通り。声明文では、中東紛争の継続に伴う不確実性と今後の情勢を注視する必要性に触れつつも、「現在の政策金利の水準は、物価安定と持続的な経済成長の見通しと整合的」とした。

## ■ 消費は引き続き増加

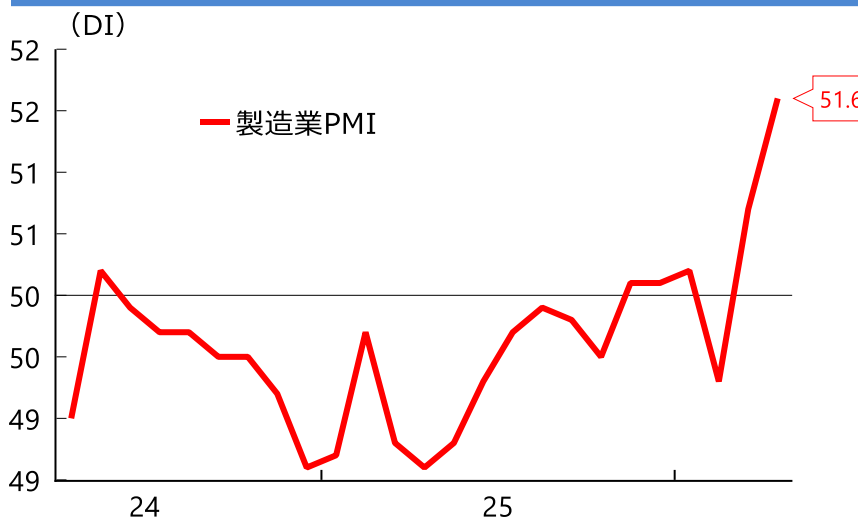
2月の小売売上高は前年比+5.4%と、前月(同+3.7%)に続き増加。3月の新車販売台数は、昨年4月だった祝日が3月にずれ込んだ関係で同▲12.9%と減少した。

## ■ 輸出は増加幅が縮小

3月の輸出は前年比+8.3%と、前月(同+10.7%)から増加幅が縮小。

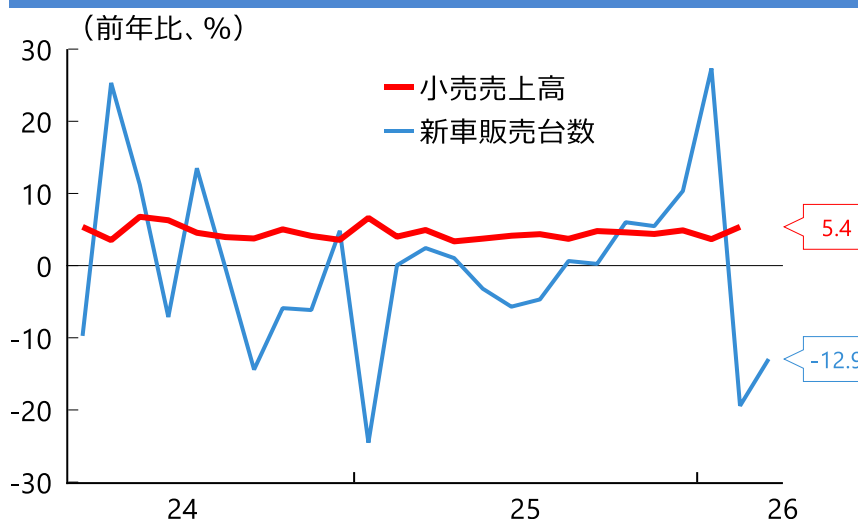
(出所) Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

## PMI



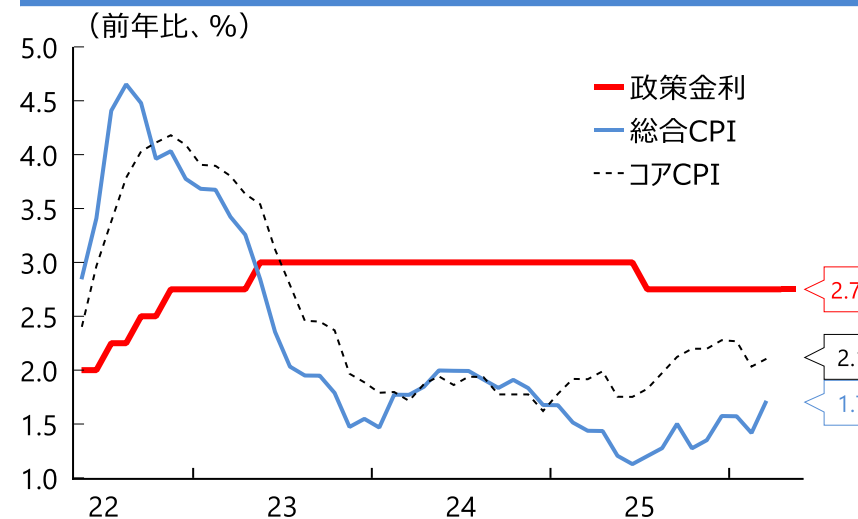
(注) 直近は4月。

## 国内消費



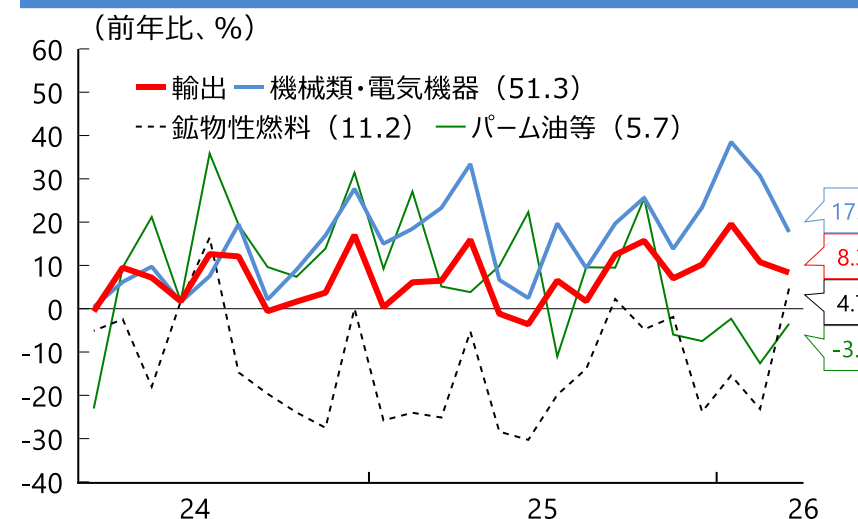
(注) 直近は新車販売台数が3月、小売売上高が2月。

## インフレ率と政策金利



(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が3月。

## 輸出



(注) 直近は3月。現地通貨建ての輸出額。( )内は25年輸出額に占める割合。 12



# ベトナム

## ■ PMIは拡大ペースが鈍化

4月の製造業PMIは50.5と、前月(51.2)から拡大ペースが鈍化。新規受注指数が縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ インフレ率は加速

4月の総合CPIは前年比+5.5%と、前月(同+4.7%)から加速。食料価格が上昇するもと、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が総合CPIを押し上げた。

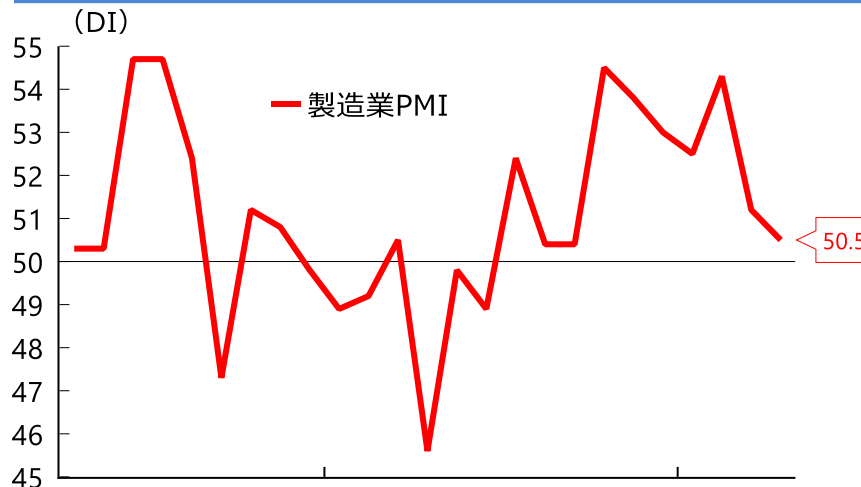
## ■ 消費は引き続き増加

3月の小売売上高は前年比+12.4%と、前月(同+12.7%)に続き増加。観光関連や宿泊・飲食サービスを中心に増加した。4月の当局予測値は同+12.9%と、引き続き増加する見通し。3月の新車販売台数は同+20.2%と、旧正月の影響で前月(同▲8.8%)減少した後、再び増加に転じた。

## ■ 輸出は引き続き増加

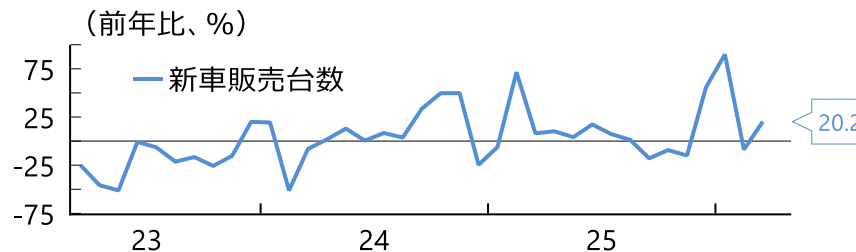
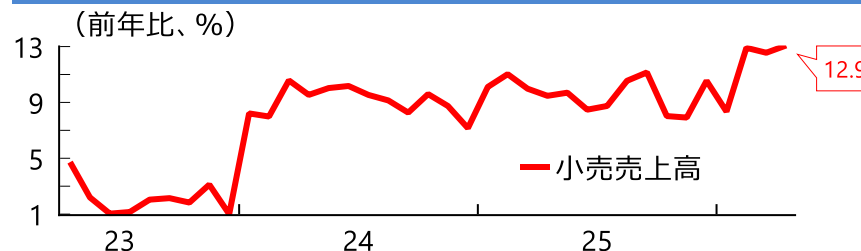
3月の輸出は前年比+40.9%と、前月(同+36.9%)に引き続き増加。旧正月の影響で増加幅が縮小した後、電子製品や機械設備等を中心に増加幅が戻り、輸出全体を押し上げた。

## PMI



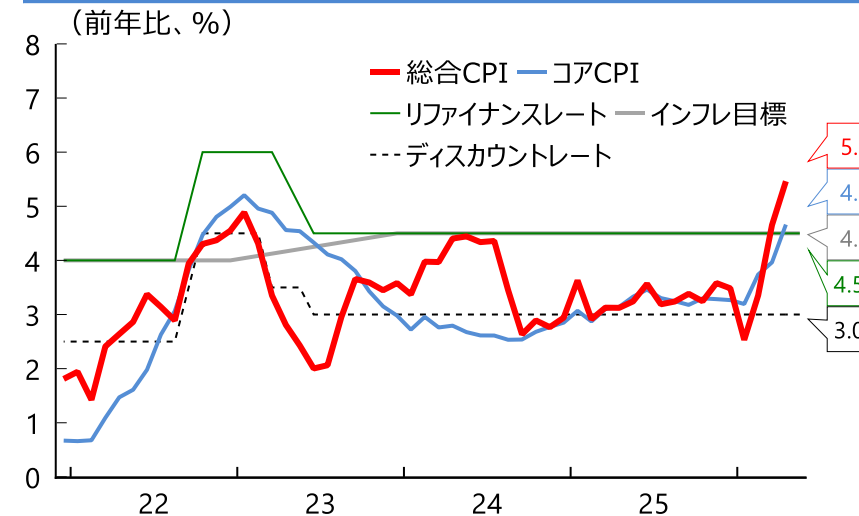
(注) 直近は4月。

## 国内消費



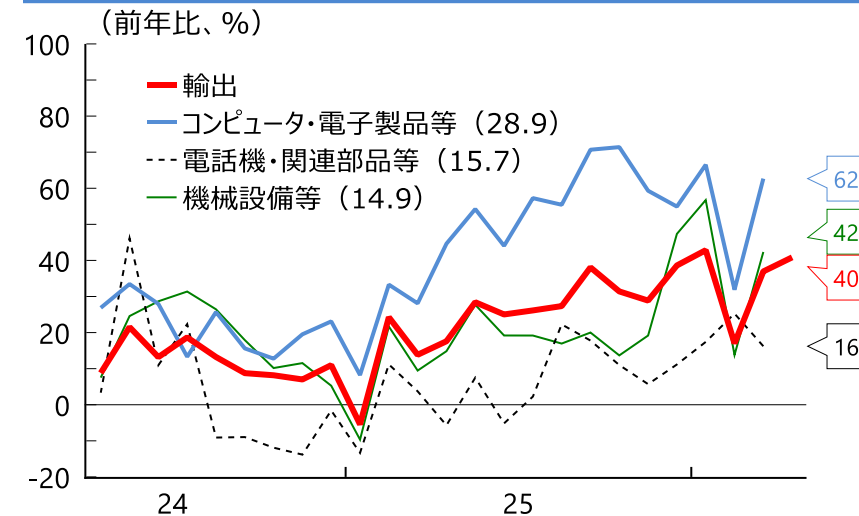
(注) 直近は小売売上高が4月、新車販売台数が3月。小売売上高の直近値は当局予測値。

## インフレ率と政策金利



(注) 直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが5/7日、その他が4月。

## 輸出



(注) 直近は3月。米ドル建ての輸出額。()内は25年輸出額に占める割合。



# オーストラリア

## ■ PMIは増加に転じる

4月の総合PMIは50.4と、前月（46.6）から増加に転じた。サービス業PMIが50.7と、製造業PMIが51.3と改善したが、製造業PMIの改善は中東紛争の影響によりサプライヤー納期指数が悪化したためであり、景況感が改善したわけではない。

## ■ RBAはインフレを警戒して利上げ

3月の総合CPIは前年比+4.6%と、前月（同+3.7%）から加速。中東紛争を受けた燃料価格の上昇が総合CPIを押し上げた。

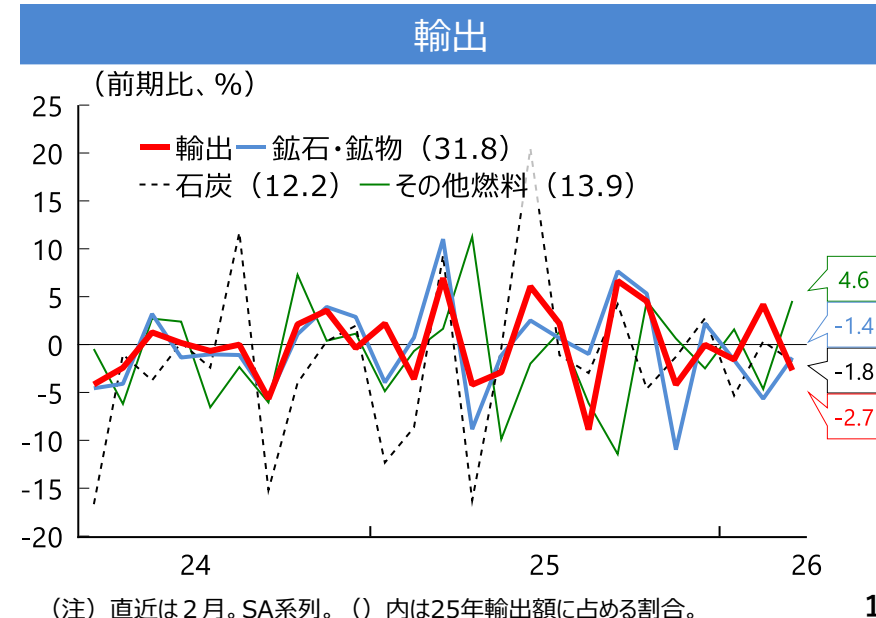
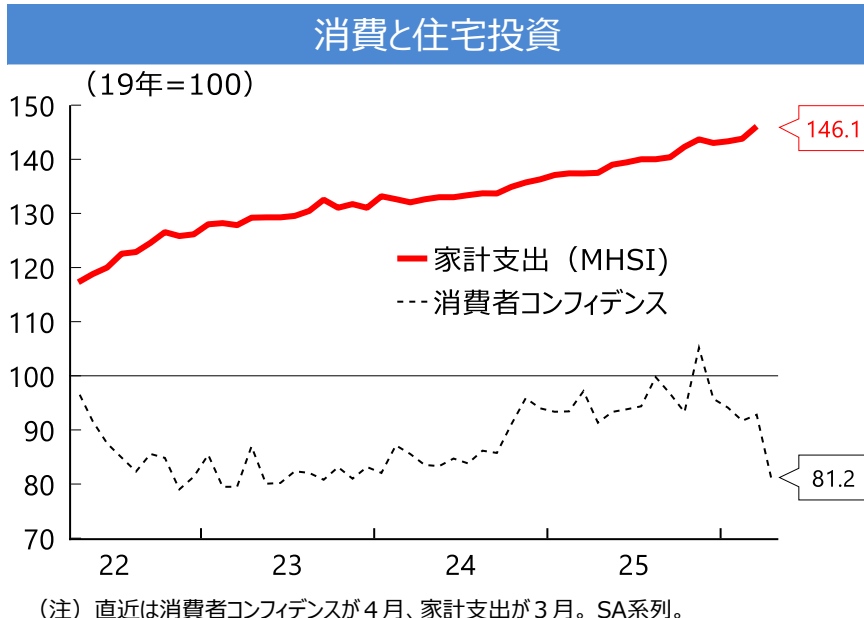
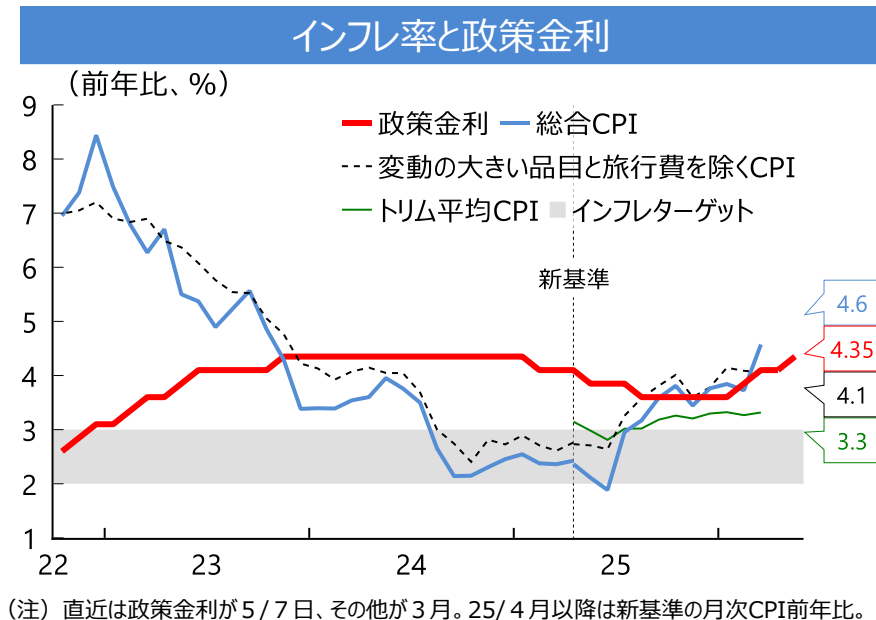
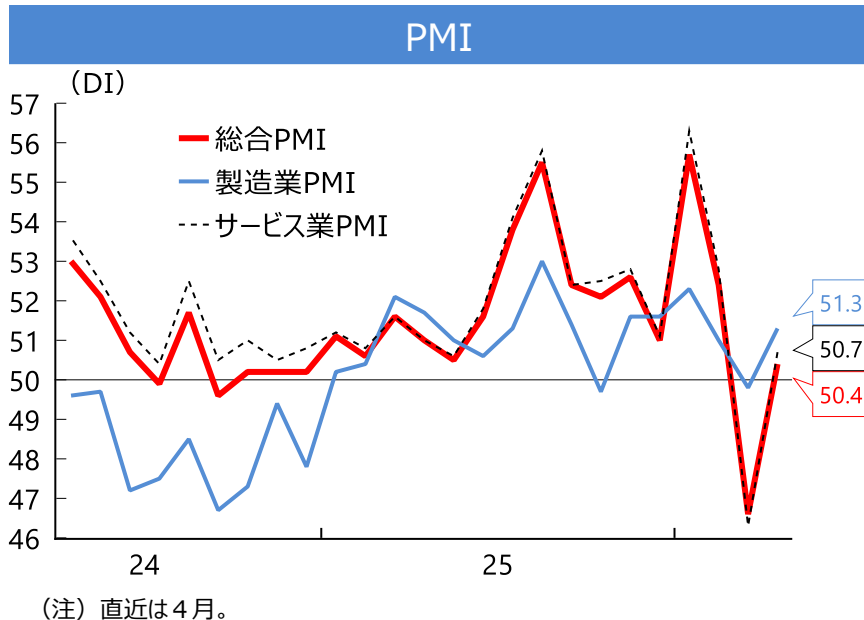
5月5日、RBAは利上げを決定（+25bps、4.10%→4.35%）。利上げは市場予想通り。声明文では、中東紛争を受けた燃料価格高騰がインフレに広範な影響を与える可能性を指摘し、「インフレ率が当面目標を上回る水準で推移する可能性が高く、インフレ期待を含め、リスクは依然として上振れ方向に傾いている」とした。

## ■ 消費は引き続き増加

3月の家計支出は前期比+1.6%と、前月（同+0.3%）に引き続き増加。

## ■ 輸出は減少に転じる

2月の輸出は前期比▲2.7%と、前月（同+4.2%）から減少に転じた。





# ニュージーランド

## ■ PMIは縮小ペースが拡大

3月の総合PMIは46.8と、前月（48.3）から縮小ペースが加速。サービス業PMIが46.0と引き続き悪化、製造業PMIも53.2と前月（54.8）から拡大ペースが鈍化した。

## ■ NBRZは予想通りの据え置き

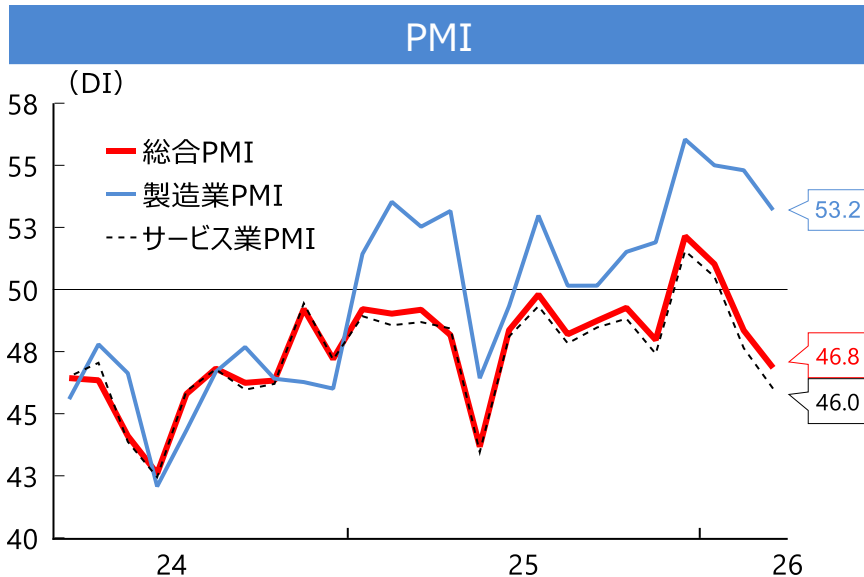
1～3月期の総合CPIは前年比+3.1%と、前期（同+3.1%）から横ばいで推移。住宅関連の伸びが鈍化したものの、中東紛争を受けた燃料価格の上昇が相殺した。4月8日、RBNZは政策金利の据え置きを決定（2.25%）。据え置きは市場予想通り。声明文では、「中期的なインフレ率上昇のリスクに先手を打って対応することによる潜在的な利益と、経済回復を不必要に阻害することによるコストとのバランスを取った結果」とした。

## ■ 消費は引き続き増加

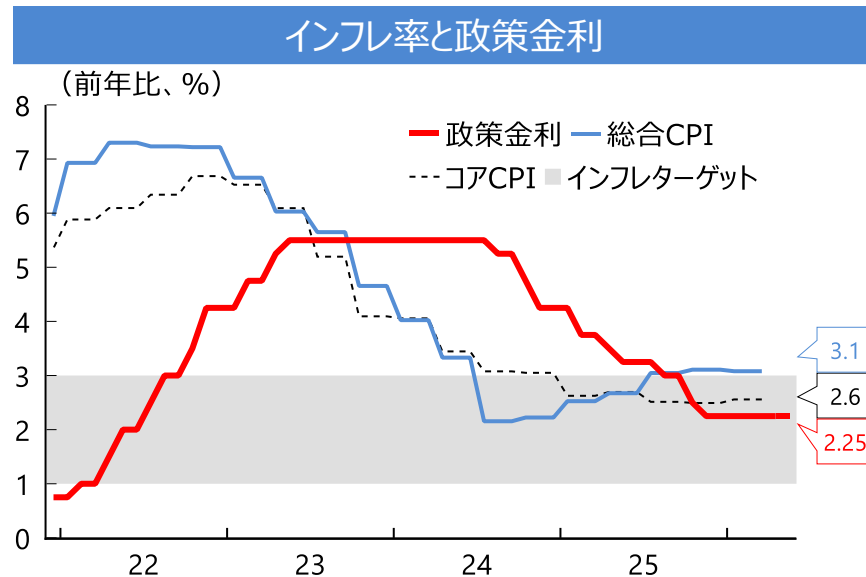
10～12月の小売売上高は前期比+0.9%と、前期（同+1.9%）から増加幅が縮小。3月のクレジットカード等取引は前月比+1.3%と、前月（同+1.3%）に引き続き増加。

## ■ 輸出は増加

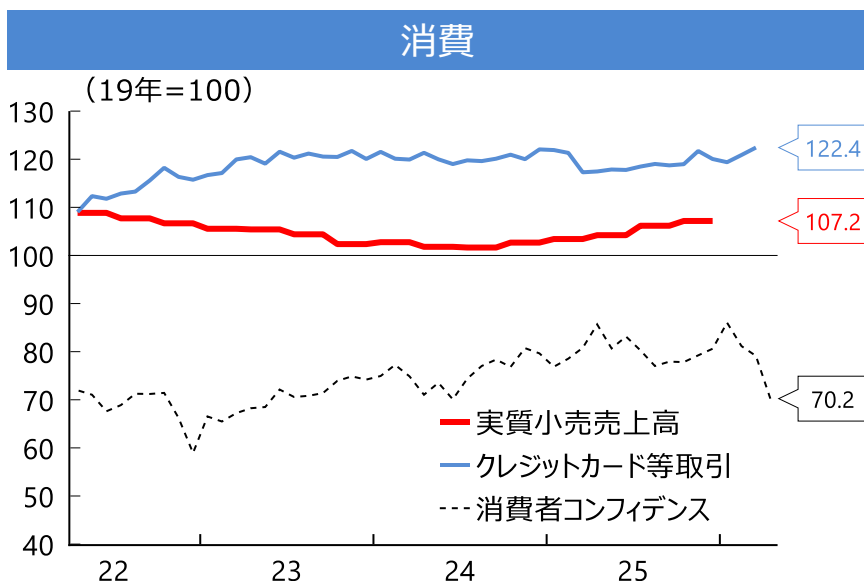
3月の輸出は前期比+5.8%と、前月（同▲2.3%）から増加に転じた。



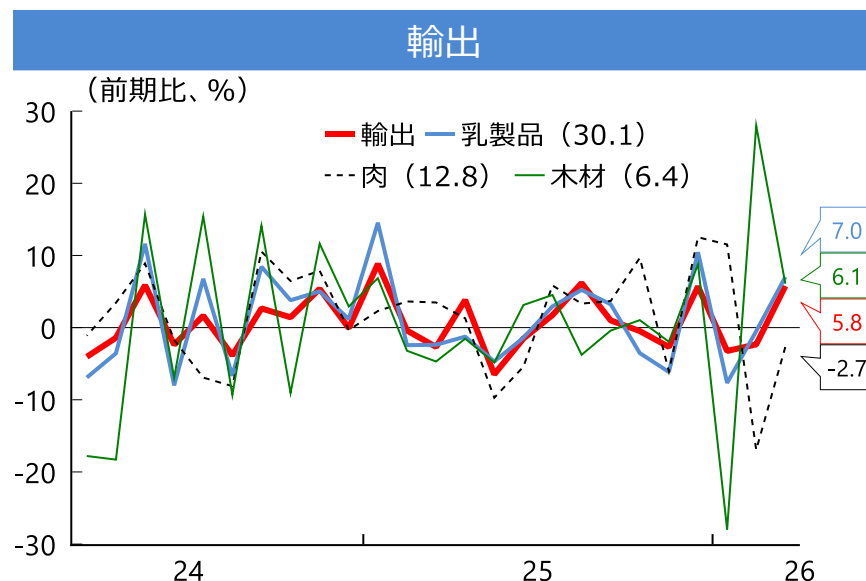
(注) 直近は3月。



(注) 直近は政策金利が5/7日、その他が26/1Q。



(注) 直近は小売売上高が25/4Q、クレジットカード等取引が3月、消費者コンフィデンスが4月。SA系列。



(注) 直近は3月。SA系列。()内は25年輸出額に占める割合。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。